

徒然草

アフリカの中小企業向け政策金融はありうるか？

藤村建夫

(一社) 日本ミャンマー友好協会会長

はじめに

日本政府が推進する「第二回アフリカ開発会議(TICAD II, 1998 年に開催)」は、雇用と所得を増大させるために、アフリカの民間部門の開発が果たすポテンシャルを強調し、民間部門、なかんずく、中小企業を開発するための行動計画 (Tokyo Agenda for Action) を採択した。また、2000 年に国連総会に参加した世界各国の首脳は、Millenium Development Goals (MDG s) に賛同し、貧困削減を最優先事項として取り上げることを強調し、そのための民間部門の役割を重視した。更に 2001 年に、アフリカのリーダーは The New Partnership for Africa's Development (NEPAD) を設立し、貧困をなくし持続的な成長への道に進むことを意図して、そのための民間部門、とりわけ中小企業開発の重要性と高い優先順位を強調した。

Africa-Asia SME (Small and Medium Enterprise) Network Programme

2004 年、これらのイニシアチブに沿って、UNDP 南南協力部 (Special Unit for Technical Cooperation among Developing Countries: SU/TCDC) は、アジアの中小企業開発の経験をアフリカの中小企業開発に役立てることを意図して、Africa-Asia SME Network Programme を立ち上げた。このプログラムは、TICAD のフォロー・アップ事業として、2007 年までの 3 年間で Phase I として実施された。

2000 年当時、アジアとアフリカの中小企業開発に関する既存ネットワークを調べたところ、それぞれの域内で活動する複数のシステムが存在していた。その中で、アジアでは、1973 年にカナダの国際開発研究センター(International Development Research Centre: IDRC)が設立し、1980 年にシンガポールの非営利法人として独立した TECHNONET Aisa がパートナーとして選ばれた。TECHNONET Asia は、8 か国、11 の中小企業振興機関を会員 (Participating Organizations: POs) として構成され、工業関係の情報普及、巡回指導員の訓練、技術移転、企業家育成を推進して、30 年以上の経験を持っていた。

他方、アフリカでは、域内の企業家を育成する組織や、投資と技術を促進する組織が個別に存在したが、活動分野が特化されていて、TECHNONET Asia に類似する組織が存在していなかった。このため、アフリカに TECHNONET Asia に類似する TECHNONET Africa を設立して、両者の交流によって、アジアの中小企業開発の経験をアフリカに移転し、共有するための南南協力が意図された。

TECHNONET Africa の設立

2004 年 6 月、アフリカの 7 か国 9 機関がメンバーとなって TECHNONET Africa が設立された。TECHNONET Africa は、UNDP の南アフリカ地域事務所が直接管理することになり、その事務所の一室に事務局が設置された。TECHNONET Africa の運営は、メンバー機関の長が Board Members となって、年間活動計画を決定し、事務局長が実施の責任者となって遂行された。

TECHNONET Asia と TECHNONET Africa が協力するアフリカ・アジア中小企業ネットワーク協力の主たる活動は以下の 6 項目であった。

- 1) 中小企業政策立案者の交流
- 2) 技術情報の交流
- 3) 技術に関する助言の提供
- 4) 企業家の育成と交流
- 5) 貿易と投資促進担当者訓練のための教官の研修
- 6) 品質と工業標準を改善するための教官の研修

アフリカの政策立案者によるアジアの SME 研修ツアー

2005 年 4 月にアフリカ 7 か国から 21 名の政策立案者が、アジアの中小企業振興政策と制度を研修するために、タイ、マレーシア、ベトナムの 3 か国を訪問した。このツアーには、5 か国（ケニア、タンザニア、ウガンダ、ガーナ、モザンビーク）から工業省の大臣・副大臣もメンバーとして参加した。これらの参加者が、アフリカの中小企業開発にもっとも役に立つと思ったのは、以下の政策項目であった。

タイ：中小企業政策、中小企業(SME)銀行、一村一品運動

マレーシア：中小企業政策、中小企業金融政策、Incubation system

ベトナム：中小企業組合、ベトナム商工会議所の活動、ハノイの中小企業支援対策



参加者は特に以下の二つの事柄に大きな教訓を得ていた。

- 1) タイとマレーシアでは、首相が議長となった「中小企業評議会」が設置され、政治的コミットメントが明確である。
- 2) タイとマレーシアでは、中小企業のための銀行が設置されて優遇金利で融資する政策金融が実施されている。

アフリカの中小企業の担保能力が低い問題について、タイの中小企業(SME)銀行総裁の融資の事例は非常に印象的であった。総裁は次のように語った。¹

¹ TECHNOET Africa and TECHNONET Asia, “Report on SME Study Tour of Asia by African Policy Makers, April 2005

「たとえば、あるテレビドラマを作成する中小企業は、ビルの一室に事務所を構え、机と電話と社員しかいない。当然、銀行融資の担保はゼロである。しかし、彼らはテレビドラマのシナリオを書き、それを放送局に持っていき、放送局がそのシナリオを気に入って、ドラマが出来上がったら、XX パーツで購入する、という契約書を取り交わす。銀行はこの『契約書』を担保として融資することができる。」総裁は、更に付言した。「SME 銀行は開発銀行であって、商業銀行ではない。中小企業がデフォルトに陥っても殺さない。もちろん法的手順には従うが、同時に、我々は日本の診断士のように、問題は何かを追求し診断する。そして、不味かったところを見つけて会社の再生を支援し、必要な追加融資を与えるのだ。利益は必要だが、我々は利益を人材訓練の費用に充当して、社会に還元する。」

アフリカの大臣・副大臣はこの説明に痛く感動した。そして「自分達もぜひとも自国に中小企業銀行を設立する」と決意した。研修ツアーの最後のレビュー会議において、参加者の大臣・副大臣は、異口同音に「自国に中小企業向け政策金融の仕組みを作りたい」と述べた。

アフリカの中小企業向けの政策金融はありうるか？

2000 年当時、アフリカでは中小企業開発の重要性が強調されるのとは裏腹に、銀行融資は大企業優先で、金利が 12～13%で行われていた。他方、中小企業はリスクが高いとして金利は 20～25%と大企業の 2 倍にも達するものであった。このため、多くの中小企業は、融資を友人や親戚から受けるものが多かった。こうした背景から、アフリカの大臣・副大臣はタイとマレーシアで見聞した「中小企業向けの政策金融」に大きな感銘を受けたのだった。

中小企業向けの政策金融については、嘗て、海外経済協力基金（OECF）と世界銀行の間で、論争があった。「1989 年当時、OECF は ASEAN 日本開発基金（AJDF: ASEAN Japan Development Fund）の資金を活用し、フィリピン開発銀行とフィリピン土地銀行の二つの政府系金融機関を経由して、地場の中小企業と農業組合員に資金を流すツー・ステップ・ローンを進捗していた。このローンでは、最終借入人への貸付金利は、市中金利よりも低い水準に設定されることになっていた。世界銀行はこれに反対して、OECF に是正を申し入れた。世界銀行は、ツー・ステップ・ローンの優遇金利が市場原理に沿わない「金利体系のゆがみ」を生み、世銀の政策目標を阻害すると危惧した。OECF は、それぞれの経済には、国民経済的に政策優先順位の高い領域が存在するという前提のもとで、市場原理だけではそれらの領域に対して、十分な量の資金が長期間に渡り安定的に供給されないという「市場の失敗」があると主張した。その例として、幼稚産業育成、インフラ建設、研究開発、公害防止などを挙げ、政府金融機関による長期・低利の金融が、「市場の失敗」に対処して、優先度の高い領域に資金を供給する上で有効であると主張した。この論争の結果、世界銀行はOECFの主張を理解して、AJDFが優遇金利(6か月定期金利マイナス2%)を提供することに合意した。」²

² 下村恭民、「最大ドナー日本の登場とその後：政策史 2・1990 年以降」、東京大学出版会、2022 年、180-182 頁

他方、アフリカの中小企業の融資金利が高いのには、別の理由もあった。それは、経営に行き詰まって破産や夜逃げする中小企業が多いので、「中小企業金融はハイリスクである」という事実だった。また、融資が非常に政治化されやすいこと、つまり、多くの中小企業は、担保能力が低いため政治家の力を借りて、銀行の幹部に圧力をかけて、無理やりに融資を承諾させ、その結果、不良債権が増大するというものだった。

研修ツアーから6か月を経て、ツアーに参加した大臣・副大臣を訪問したところ、いずれも自国において、中小企業向けの銀行設立を強く主張したようだ。しかし、彼らの多くは、中小企業向けの政策金融を行う銀行設立には成功していなかった。特に世界銀行は「中小企業向けの政策金融を開始すれば、政策金融が市場金利のゆがみを作るのみならず、必ずや政治化されて不良債権が増大し、銀行経営は不良債権の山を築く」と言って、反対したらしい。大臣・副大臣は「アフリカの中小企業向け政策金融はありえないのか?」、と大いに失望していた。

現在のアフリカのSME向け政策金融

月日は流れ、アフリカの大臣・副大臣がアジアを訪問してから、丁度20年が経った現在、情勢は大いに好転しているように見える。5つの国にある中小企業向けの政策金融の事例を調べてみると、いずれの国にも複数の政策金融の制度が出来上がっているようだ。国別に政策金融の事例を調べてみると以下のような事例が見いだされた。³

ケニア

Uwezo Fund：青年、女性、障害者のビジネスを支援する

中小企業向け金利：Maximum 10% per annum

タンザニア

Tanzania Agriculture Development Bank loans: JICAによる円借款のツー・ステップ・ローン・プロジェクトで農家との中小企業の生産性向上と農産物の加工と流通を促進する。

農家・中小企業向け金利：Maximum 15% (Negotiable)

ウガンダ

Uganda Development Bank (SMEs & priority sectors)：中小企業、農業、インフラ、人的資本、ツーリズム等)の開発を促進する。

中小企業向け金利：10~12% per annum

ガーナ

Ghana Microfinance and Small Loan Centre (MASLOC)：インフォーマル・セクターへのマイクロ・ファイナンスと中小企業向けに融資する。

中小企業向け金利：12% per annum

モザンビーク

Banco Nacional de Investimento、FAE SMME Schemes：ザンベジ渓谷の農産物のバリュー・チェーンの改善と専門的技術の向上を図るプロジェクトの一環としての企業家の育成を図る。

中小企業向け金利：10~15%

これらの中小企業向けの政策金融は、いずれも政府の中小企業振興策の一環として政府系の銀行を通して実施されており、融資の際には、技術的助言をすることが望ましいと推奨、実施されている。ということは、すでにアフリカでは、市中銀行の大企業

³ 金利のデータ出所は、参考文献の3~7を参照。

向け融資(16～25%)よりも、中小企業向け政策金融がはるかに低利(15%以下)で実施されているということである。TECHNONET Africa の研修ミッションに参加した大臣・副大臣の努力が実を結んだという証左であろう。彼らも、きっと心の底から喜んでいてに違いない。可能であれば、再会して喜びを分かち合いたいものだ。

参考文献

1. 下村恭民、「最大ドナー日本の登場とその後」政策史2・1990年以降、東京大学出版会、2022
2. TECHNOET Africa and TECHNONET Asia, “Report on SME Study Tour of Asia by African Policy Makers, April 2005
3. ケニア：Uwezo Fund：青年、女性、障害者のビジネスを支援する。
(<https://www.uwezo.go.ke/>)
4. タンザニア：Tanzania Agriculture Development Bank loans：農家と中小企業の生産性向上によって農産物の加工と流通を促進して、所得の増大を図る。
(<https://www.tadb.co.tz/business>)
5. ウガンダ：Uganda Development Bank (SMEs & priority sectors)：中小企業、農業、インフラ、人的資本、ツーリズム等)の開発を促進する。
(<https://udbl.co.ug/wp-content/uploads/2022/12/UDB-Priority-Sectors-PRINT.pdf>)
6. ガーナ：Ghana Microfinance and Small Loan Centre (MASLOC)：インフォーマル・セクターへのマイクロ・ファイナンスと中小企業を振興する。
(<https://www.gavinpublishers.com/article/view/poverty-reduction-in-ghana-microfinance-and-small-loan-centre-masloc-in-perspective>)
7. モザンビーク：Banco Nacional de Investimento、FAE SMME Schemes：ザンベジ溪谷の農産物のバリューチェーンの改善と専門的技術の向上を図るプロジェクトの一環としての企業家の育成を図る。
(<https://www.bni.co.mz/en/development-banking/fae/>)